

ヨシでびわ湖を守る ネットワーク通信

31

VOL.



子育てに忙しいカイツブリの親子

撮影:TO

初夏を迎えるヨシ原の水辺では新しい生命が誕生していました。皆さんもご存じの琵琶湖を代表する「県の鳥」のカイツブリです。聞くところによりますと激減しているとか。原因は水質の変化や巣を作るヨシ帯の減少、ヒナを襲う外来魚などの外敵の増加が指摘されているそうです。そういえば、長年ヨシ帯の観察をしています、特に農繁期と重なる5月、6月ごろは濁水が流れ込んで茶色く濁った水を見かけます。少しずつ人との共存が難しくなっているのではと感じています。それにしても忙しく水に潜り子供にエサを与えるカイツブリの親を見ているとほほえましい光景でした。

びわ湖を知る ■ 問題

滋賀県の鳥はもちろんカイツブリです。では、滋賀県の花は何でしょう。

- ①うめ
- ②もみじ
- ③しゃくなげ
- ④つばき

特集 1ページ

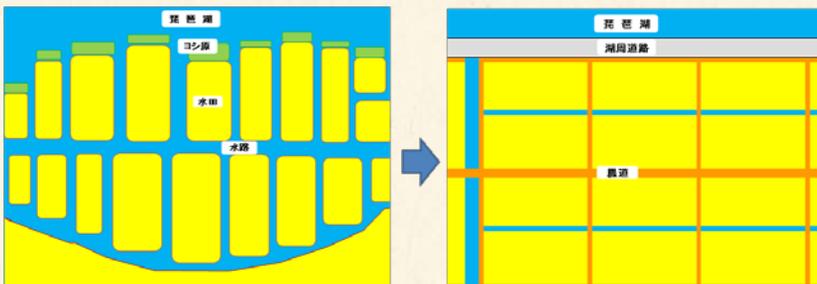
滋賀県立琵琶湖博物館 専門員 下松 孝秀 様より



魚のゆりかご水田の取り組みについて

<湖岸の開発について>

かつて、今よりもはるかに多くヨシ原が存在した琵琶湖の湖岸では、昭和47年から実施された琵琶湖総合開発事業によって湖岸堤防が造成され、多くのヨシ原が埋め立てられました。また、同時期に実施された「ほ場整備事業」によって、クレーク状に発達した水田の水路は埋め立てられて大区画の農地が造成され(図1)、現在では、大型機械による近代的な農業が営まれています。湖岸堤防には湖周道路が設置されて利便性が向上し、堤防により洪水被害が軽減される等、琵琶湖総合開発事業は滋賀県民に大きな恩恵をもたらしました。しかし、一方では、堤防設置によって琵琶湖と水田地域とが分断され、水田やその周辺のヨシ原を産卵場所として利用していたフナやナマズ等の魚類には大きなダメージを与えました。さらに、ほ場整備事業は、大型機械の走行性を確保したり転作可能な乾田を造るために、排水路を広く深く造りました(写真1)。そのため、フナ等の魚類はかつてのように水路から水田に上がり、産卵することができなくなりました(図2)。



(図1) 『湖岸の水田開発イメージ図』



(写真1) 『整備された水田と排水路』

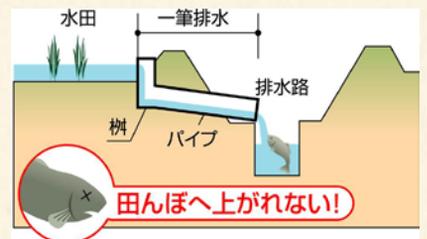
<水田は魚のゆりかご>

日本に稲作が伝わったのは、縄文末期から弥生時代にかけてと考えられていますが、滋賀県は広く肥沃な沖積平野を有するため、比較的早い時代から水田稲作が発達した地域であり、フナやナマズ等の魚類は、昔から産卵場所として水田を利用していたと考えられます。

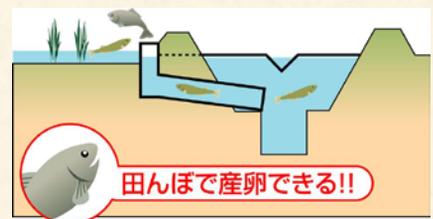
水田が「魚のゆりかご」である理由は次のとおりです。まず、水田は栄養分が豊富であるため、水を入れると多くのプランクトンが発生し、これが稚魚の豊富な餌となります。また、水深が5~20cm程度と浅く、日光により水温が高く保たれることから、孵化や成長に有利に働くとされています。さらに、近年琵琶湖で増加しているオオクチバスやブルーギル等の外来魚は水田まで遡上してくる性質がないため、これら外来魚による捕食の影響が少ないのです。このような理由により、水田は湖岸のヨシ原等、他の水域と比較して格段に稚魚が育ちやすい環境にあるのです。

<魚類の産卵・生息場所の復活>

この「魚のゆりかご」である水田に、魚類の遡上を促し、少しでも、その産卵・成育場所を取り戻そうとして取り組まれているのが、「魚のゆりかご水田プロジェクト」です。この「魚のゆりかご水田」は排水路に堰上式魚道を設置し、



(図2) 『ほ場整備によってできた水田と排水路の落差』



(図3) 『水田と排水路の落差を解消』

特集 2ページ

水位を階段状に水田の高さまで上げることで、魚類が水田へ遡上できるよう
にしてあります(写真2、3、図3)。この魚道は4月～5月の代かき期前後に設
置され、6月頃の中干し時期まで据え置かれます。中干しとは、稲の生育の
ため、6月頃に敢えて水田から排水し、ほ場を乾かす作業のことです。水田に
遡上した魚類は水田内で産卵し(写真4)、生まれた稚魚はこの期間に2～3
cmにまで成長し、中干しで水田から水が排水される時に、一緒に水路に流れ
落ち、琵琶湖や川へ帰っていきます。平成13年度から始まったこのプロジェク
トは、平成29年度には、県下で24地域、水田面積131ヘクタールにまで広がっ
ています。



(写真2) 『堰上式の魚道』



(写真3) 『排水路を遡上するコイ(左)、フナ(右)』

<滋賀県の農業集落>

魚のゆりかご水田の取り組みを行うためには、魚道のある水路に接する水
田の作付時期や中干し時期を合わせるため、農作業時期や作付品種の調
整が必要となり、集落の農家の方の同意と協力が不可欠です。滋賀県の農
業集落というのは、江戸時代よりもっと前、鎌倉時代くらいから、農業集落と
して形づくられ、現在にまで続いている古い歴史があるため、集落としてのま
とまりが強く、都市化の進んだ現在でも集落単位で農業を行う「集落営農」が
全国的にも非常に多く取り組まれている地域です。この農家のまとまりの良
さというのが、滋賀県において魚のゆりかご水田の取り組みを進めやすい背
景になっているのではないかと考えています。



(写真4) 『水田で産卵するフナ』

<魚のゆりかご水田の効果>

魚のゆりかご水田で、県の「環
境こだわり農業」に取り組むととも
に、使用する除草剤は魚毒性の
低いものに限定するなどして、魚
の生育に配慮して栽培された米は
「魚のゆりかご水田米」として県が
認証し、米のブランド化を図って
います(写真5)。



(写真5) 『「魚のゆりかご水田米」
として販売』



(写真6) 『魚つかみイベントの様子』

また、中干しの頃、稚魚が水田から流下するときに、地域住民等を交えた魚つかみを、毎年恒例のイベントとして実
施している地域もあります(写真6)。魚のゆりかご水田の取り組みは、こうして農家ではない人達にも水田や琵琶湖
の価値を再認識していただく機会となっています。

水産試験場の調査では、琵琶湖のニゴロブナが増加傾向にあり、魚のゆりかご水田と県の水産課が実施している
水田への稚魚放流による効果も確認されています。さらに、子ども達の環境学習の場や、地域との交流、環境保全
型農業の推進等の社会への啓発効果も非常に大きな役割を果たしています。

ネットワーク 広場

フジテック株式会社

総務部 松原 良樹 様より



マスコットキャラクター『テッキー』
“安全・安心”な商品とサービスを
目指すフジテックのマスコット

ヨシ刈り作業で爽やかに

【当社の紹介】

フジテックは、エレベータ・エスカレータ・動く歩道などの都市空間移動システムのリーディングカンパニーです。

1948年の創業以来、研究開発から設計、製造、据付、保守に至るまで、自社一貫体制で行い、今年で創業70周年を迎えました。現在では24の国と地域で事業拠点を展開しています。その中で、エレベータの研究、開発、生産におけるグループのコア拠点となっているのが、滋賀県彦根市にある本社「ビッグウイング」です。

ビッグウイングのシンボルとなるのが、高さ170mのエレベータ研究塔です。これはエレベータの研究開発施設として世界最大級の高さや規模を誇るものです。ここでは、分速1,000m(時速60km)級の超高速エレベータをはじめとして、よりスピーディにそして、より安全で快適な移動システムの創造を使命として、最先端技術を取り込んだ次世代エレベータの研究、開発に取り組んでいます。

【ネットワーク会員となったきっかけ】

環境に関する新製品や新技術、他社のCSRの取り組み事例などの情報収集のため、毎年、長浜市で開催されている「びわ湖環境ビジネスメッセ」を見学しています。出展されていたコクヨ工業滋賀様のブースに伺った際に、お誘いをいただきました。地元企業として何か貢献できる活動がないか検討している時期でしたので入会しました。2013年12月の東近江市 伊庭内湖ヨシ刈りボランティアに参加して以降、ヨシ刈りには継続して参加しています。当社からは毎回20人程度参加していますが、びわ湖の環境保全に微力ながら貢献できればと考えています。



『フジテック本社 ビッグウイング』



『ヨシ刈り集合写真』



『ヨシ刈り作業風景』

実際のヨシ刈りは思った以上にハードな作業で、成長したヨシであれば4~5メートルになるものもあり、冬場の活動にもかかわらず、毎回大粒の汗が流れるほどで、非常に刈り応えがあります。ビッグウイングでは7割強の社員が滋賀県民ながら、これまでヨシ刈りを体験したことがない者もあり、初めて参加した社員からは、「滋賀県民としてびわ湖の環境保全活動に貢献でき、心地よい爽やかな汗をかいた」と、うれしい感想もありました。また、今年6月の外来魚釣り大会にも初めて参加しました。

今後も様々な活動を展開されると思いますが、当社としても積極的に参加させていただきます。コーポレートカラー「赤色(ウイングレッド)」のジャンパーを着用して参加していますので、見かけたらお声がけください!

今後ともよろしくお願い申し上げます。

みんなの リエデン

【リエデンプロジェクト】

【活動発表のようす】

第20回 日本水大賞 「経済産業大臣賞」 受賞

日本水大賞は、名誉総裁が「秋篠宮殿下」、委員長が元宇宙飛行士の毛利衛さんが務められる権威ある賞です。この賞の目的は、日本のみならず地球全体を視野に入れて、水循環の健全化を目指し、美しい水が紡ぎ出す自然の豊かさの中にも水災害に対して強靱な国土と社会の実現に寄与する取り組みを表彰する制度です。



【西銘 経済産業副大臣と
記念撮影】

秋篠宮同妃両殿下のご臨席を賜り表彰式が行われました。

（表彰式、記念写真、記念パーティーでご臨席された皇室の方々の画像は、あらゆる媒体、資料で使用禁止となっており、残念ながら掲載することが出来ません。）

《審査員評価》

地域の多くの企業、学校、団体などと広く連携する「ヨシでびわ湖を守るネットワーク」を設立し、先導的立場でヨシ原の保全活動を実践している。また、ヨシの商品化を実現した「リエデンシリーズ」を創り出し、その収益の一部を社会に還元するなど企業本来のビジネス活動とを結びつけた取り組みとして高く評価でき、工業の発展、資源の有効な利用等に大きく貢献するものと考え、経済産業大臣賞にふさわしいと判断した。

授賞式：

6月26日（火）

東京 日本科学未来館にて



この荣誉ある日本水大賞を受賞できましたのは、多くのネットワーク会員の皆さまや地域の環境団体の皆さまのご支援、ご協力とヨシ商品の開発・製造・販売に携わっていただいている皆さまのおかげです。

心より感謝申し上げます。



ネットワーク アルバム

6月9日(土)

伊庭内湖 外来魚釣り大会のようす



『前夜の雨も上がり絶好のコンディション？ 少々風が…。』

それでも昨年並みの捕獲量を回収出来ました。ブラックバスが0匹は残念でした。』



『ネットワーク参加者：156名

ブラックバス：0匹

ブルーギル：452匹 ますます！』



西の湖 カヌー&和船でヨシ原観察

8/4(土)に開催予定でしたが、「命にかかわる危険な暑さ」と報道されるほど連日猛暑が続き、今夏のカヌー観察会は残念ながら中止となりました。残念！



びわ湖を知る ■ 解答 

③ しゃくなげ(石楠花)

日野町の石楠花溪は国の天然記念物です。